

市長記者発表

全国版空き家バンク「アットホーム空き家バンク」との 全国の自治体初の API 連携の開始に関する記者発表

令和5年4月18日

今治市長（徳永繁樹）の発言内容

【はじめに、移住者数等の最新数値の紹介】

まずはじめに、本市の移住・定住の施策につきまして、大変うれしい報告がございますので、この場をお借りしまして、発表をさせていただきます。

先日取りまとめました速報値でございますが、昨年度の市外からの移住者数は、2,106人となりまして、令和3年度に比べ、641人増加しております。

なお、今治市への移住者の数が2,000人を超えたのは、平成29年度に統計を取り始めて以来、初めてのことでございます。

また、昨年度の本市への移住相談件数でございますが、908件となっております。令和3年度の274件の3.3倍となりました。移住相談件数も、これまで最多でございました令和2年度の361件を大きく上回るたくさんのご相談をいただきました。

みなさまにもご案内のとおり、本市は、宝島社「田舎暮らしの本」が選定しております2023年版第11回「住みたい田舎ベストランキング」10万人以上20万人未満のまちの 카테고리におきまして、総合部門 全国1位、単身者・若者世代部門 全国1位、子育て世代部門 全国1位、シニア部門 全国1位 の4冠に輝いてございます。

これまで、本市が移住・定住施策に注力してまいった成果が数字となって現れたと実感してございます。

【今回実施した施策の説明】

さて、今回のシステムにつきまして、簡単にご説明申し上げます。

今治市は、これまでに移住を完了された皆さんから、本市へ移住を決めた決め手や移住にあたって、どのようなことにご苦労なされたのかということをご丁寧ヒアリング調査してまいりました。その結果、多くの皆様から、「お仕事」と「お住まい」の情報が届きにくかったとのお声をいただいております。

このような状況を少しでも解決するために、この度、今治市版空き家バンクと、アットホーム株式会社様の全国版空き家バンクである「アットホーム 空き家バンク」との間で、本市にも大変ゆかりのございますサイボウズ株式会社様のクラウドデータベース「kintone（キントーン）」を活用し、リアルタイムで物件情報の配信管理を行うことが可能

となる「API 連携」を、全国で初めて開始することとなりました。

このことによりまして、全国の本市への移住にご興味をお持ちの方々に対し、いち早く、今治市の様々な住環境に関する情報提供体制が構築されることとなり、これまで以上に、より多くの方々に、本市への移住をご決断いただけるきっかけとなるものと期待をしております。

【おわり、関係者へのお礼】

本日は、先ほどご紹介がございましたアットホーム株式会社 太田グループ長さま、サイボウズ株式会社 久保部長さまには、業務ご多忙の中、本市との共同での記者会見ということでご出席いただきありがとうございます。誠にありがとうございます。

なお、今回の発表の詳細につきましては、担当から説明をさせていただきます。

私からは、以上でございます。

担当者（地域振興課）の説明内容

【はじめに】

それでは、この度の、本市が運営する空き家バンク事業と国土交通省選定の全国版空き家バンク「アットホーム空き家バンク」との間において、リアルタイムで物件情報の配信管理を行うことが可能となる「API連携」について、説明させていただきます。

【1 空き家バンクシステムのDX化推進】

先ほど市長からも説明がございました通り、私ども今治市は、これまでに移住を完了された皆様から、本市へ移住した決め手や移住にあたって、どのようなことに苦労されたかなどを丁寧にヒアリング調査してまいりました。ヒアリング調査の結果、多くの移住完了者の皆様から、「仕事」と「お住まい」の情報が届きにくかったとのお声をいただきました。

そこで、令和3年度から、島しょ部において、今治市空き家バンクを試験的に導入し、市内の宅地建物取引業者の皆様のご支援も賜りながら、少しずつ、空き家情報の掘り起こしを行ってまいりました。

発掘した空き家の情報は、職員がワードやエクセル、また、PDFなどを活用し、手造りのデータを宅地建物取引業者様にお送りしてまいりま

したが、あまり効率がよいものとは言えませんでした。

そこで、私ども今治市では、空き家バンクのシステムの多重化を見据えて、画面上で直感的にサイトの構築・改修が可能であるサイボウズ株式会社様のクラウドデータベース「kintone（キントーン）」を活用し、今後、プログラムや制度の変更が生じた場合でも、自前で容易に対応可能である利点を最大限に活かし、本市側のAPI連携部分については、今治市に本社がある唯一のサイボウズオフィシャルパートナーであるケーオー商事株式会社様、「kintone（キントーン）」を活用したシステム開発で定評のあるベンダー、株式会社ジョイゾー様に開発をお願いしました。

【2 アットホーム空き家バンクとのAPI連携】

今回、今治市の空き家バンクの発展形として、アットホーム株式会社様の全国版空き家バンク「アットホーム空き家バンク」との間において、リアルタイムで物件情報の配信管理を行うことが可能となる「API連携」を、全国で初めて開始することになりました。

アットホーム株式会社様の全国版空き家バンク「アットホーム 空き家バンク」は、令和4年度国土交通省住宅局の支援制度【住宅市場を活用した空き家対策モデル事業】において、2022年7月「ポスト・コロナ時代を見据えて顕在化した新たなニーズに対応した総合的・特徴的

な取組を行う事業」の実施事業者に採択され、自治体の空き家バンクと「アットホーム 空き家バンク」とのデータ連携モデルの構築により、自治体が抱える空き家バンクへの物件登録・公開時における課題解消に取り組むとともに、参画自治体の増加・利用を図ることで、空き家の利活用を促進し、不動産の流通活性化に貢献されております。

この度、本市移住・定住・交流ポータルサイト「いまばり暮らし」の「いまばり空き家バンク」とアットホーム株式会社様が進める自治体の空き家バンクが相互に連携を図ることで、複数の空き家バンク媒体への同時掲載が可能となり、移住希望者への情報斡旋スキームの強化、最適化がはかられました。同時に、空き家物件所有者、移住希望者をはじめとする物件紹介希望者並びに関係宅建事業者・団体間相互における情報共有体制についても、さらに強化されることになりました。

このシステムについて、一言で申し上げますと、1つの空き家情報を1回入力することで、本市の空き家バンクとアットホーム様の空き家バンクに同時にデータ反映され、スピーディーな情報提供が可能になったということでございます。

私からの発表事項は以上でございます。

アットホーム株式会社様からのご発言内容

【官公庁・地域共創業務推進グループ長 太田 裕介様】

アットホーム株式会社の太田と申します。よろしくお願いいたします。

アットホーム空き家バンクは、2017年10月に開設しまして、今年で5周年を迎えております。現在、685自治体に参画していただいております。空き家の情報やまちの情報を消費者の方に提供しております。

自治体様の課題解決に向けて、データ連携に取り組みたいと考えていたところ、今治市様よりお声がけいただき、約1年かけまして一緒に取り組みをさせていただきました。連携が開始できたことを大変うれしく思っております。

今後、自治体様の課題解決を行いながら、空き家の流通の活性化に取り組んでまいりたいと考えております。

本日は、ありがとうございます。

サイボウズ株式会社様からのご発言内容

【カスタマー本部ローカルブランディング部 部長 久保 正明様】

サイボウズの久保でございます。

本日はこのような機会をつくっていただき、本当にありがとうございます。
ます。

今治市様におかれましては、平素より、弊社のクラウドサービスでありますキントーンをご活用いただきまして、様々な業務改善に取り組んでいただいております。

空き家バンクにつきましても、弊社キントーンのプログラミングをしなくてもシステムがつくれるというローコードツールという特徴を生かしていただきまして、非常に柔軟でかつ利便性の高いシステムを構築いただいております。

今回、全国に先駆けて、このアットホーム様のアットホーム空き家バンクとAPIというプログラムで連携をして、自動的にデータをやりとりする、そういった仕組みを構築いただきまして、我々としても非常に感謝いたすとともに、今後こういったシステムがどんどん、全国に広がって、全国の空き家対策が改善に繋がるような、そういった動きになることを期待しております。

本日はどうも、ありがとうございました。